

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月9日

【評価実施概要】

事業所番号	270201452
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホームバンドー弘前石渡
所在地 (電話番号)	〒036-8316 青森県弘前市石渡3丁目1-25 (電話) 0172-39-2681

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 14日	評価確定日	平成 21年 1月 9日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	10人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.7 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋内科、デンタルクリニック佐藤
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅街の中に立地され、近所には公園やショッピングセンターがあり、気軽に散歩や買い物に行くことができる。また徐々に近所付き合いができてきており、野菜や切花を頂いたり町内会の祭に参加するなど地域住民の一員として交流が構築されてきている。</p> <p>管理者、職員は理念に基づいたサービス提供を常日頃から心がけ、散歩時は積極的に地域住民に挨拶を交わしたり、また入居者の日常生活が平坦で終わらぬよう日々その人らしく過ごせるよう働きかけている。グループホーム会社の運営理念にある自尊心の充足を与え続けられるようサービスの提供に努めている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題では、全職員で話し合いをもち、理念を見直しユニット毎に地域密着型サービスとしての役割を含んだ内容へ作り直している。また災害時の非常食を用意し対策をされている。ただ職員の研修への参加が少なく、まだ改善を要すると思われる。また栄養に関し、協力が得られていた法人の栄養士が離職したため、まだ栄養バランスなどの確認がされていない。今後取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に管理者が作成し、それをもとに全職員で話し合い作成されている。職員は自己評価の意義を理解し、日々のサービスの見直しや気づきにつながり、より良いサービスの提供につながっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を通して、日々のグループホーム内での活動を見てもらったり、活発な意見が得られたりしている。その意見をサービスに反映し、地域に開かれたグループホームを目指している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族からの不安は、その都度対応し解消につながるよう支援しているが、苦情の受付は入居の契約時に説明することで終わっており、また意見等に関しては面会時や計画作成時に話を聞くようにしているが、直接意見が言いにくい場合の対応策が明確にされていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時は、積極的に地域住民の方々へ挨拶をし、顔なじみの関係を構築している。また町内会にも加入しており、祭への参加や要請があれば地域の清掃への参加も検討している。町内会の会長や民生委員との関係も良好で協力的である。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念である「自尊心の充足を与え続ける」に基づき、昨年地域密着型サービスとしての役割を各ユニット毎に話し合い、地域の中で暮らすことの大切さを全職員で再確認し、その役割を取り入れた理念に作り直されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所に掲示し、いつでも確認しサービスに反映できるようにしている。また、カンファレンス時など折りに触れ共有することで実践に反映させるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設当初より、近所の方々と馴染みの関係ができるよう散歩時の挨拶を心がけ、そのうち隣の方から野菜やお花を頂くなど、少しずつ馴染みの関係を築いてきている。町内会に加入しており、町内会の祭にも招かれ、地域住民として交流の機会を得ている。また近所のお店や美容院の方とも顔馴染みになり、時には車で送迎してもらうなど良好な関係を築いている。また美化活動へ参加する意向があり、町内会長へ声がけし地域の一員として取り組もうと努力されている。見学など随時対応し、ホームの理解を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員は理解しており、評価項目については各ユニットの管理者が作成し、それをもとに全職員で話し合い作成されている。それぞれの自己啓発につながりサービス向上に反映されている。また、昨年度の外部評価項目についても全職員で改善にむけて話し合い積極的に取り組まれている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は開催され、入居者代表をはじめ、ご家族、民生委員、町内会会長、市役所担当職員で行なわれている。内容はグループホームの日常生活の報告や夜間避難訓練の様子、グループホーム側からの研修報告(認知症の理解)が行なわれ、参加者からは活発な意見を頂き、運営に反映されている。また会議を通じて少しずつではあるが、地域の方々との交流も生まれ深められている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の各種手続き時には書類を持参し、担当者へ何でも相談するようにしている。またグループホームのパンフレットを持参したり、昨年度の外部評価結果の報告を行ったりしている。また運営推進会議終了後にはその都度、会議録を送り、内容を報告し確認してもらっている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について管理者が研修で学び、全職員に伝達研修が行われている。また、制度の利用が必要と思われるご家族にはスムーズに活用できるよう説明するなど、必要時いつでも活用できるよう支援している。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成しており、入社時を初めとして教育研修の機会がある。また管理者は虐待が起こらないよう日々のケアにおいても職員に指導し防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の案内、申し込み、見学時の説明に関しては本部の専門職員が主に行ない、入居が決まればその後グループホームの管理者が面談し、契約等の説明や疑問点など細かな部分の説明を丁寧に行なっている。また利用料金の改正についても事前に説明し、同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>キーパーソンのご家族については日常の状況を面会時、電話にて報告している。また、それ以外で遠方に住んでいるご家族は必要に応じて手紙を送り近況を伝え、入居者の変化が随時把握してもらえるようになっている。また金銭管理については毎月報告しており、遠方のご家族にも返信用の封筒を同封し、確認のサインをもらうなど徹底されている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>会社の方針で意見箱の設置はなく、また苦情に関しては契約時の説明で留まっている。ケアプランの作成・見直しの際には、意見を聞くように努めている。面会時にも意見等はないか聴く姿勢を大切にされているが、あまり意見が聞かれない。</p>		<p>入居されて長くなるとご家族から直接意見等を述べてもらおうことが難しいと考えられるため、意見等が言える場が事業所以外にあることを繰り返し伝えたり、間接的に意見を表せるような取り組みを期待したい。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には数年間、職員の異動はないが、異動等があった場合には入居者へ丁寧に説明を行なっている。新人職員には入居者と徐々に馴染んでいけるようオリエンテーションやケアを実際に見て頂き、混乱の少ない方から対応していくなど管理者は利用者へのダメージを最小限となるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修終了後には申し送りやカンファレンスを利用して職員間で共有できるよう取り組んでいる。ただ、外部研修の機会がほとんどなく、自主的に研修へ行く際には休みを利用することとなるため、なかなか参加することが出来ない。また、グループホーム内部での研修体制も整っていない。</p>		<p>研修は、職員の質の向上のために必要であり、内部・外部の双研修への参加を職員の自主性に任せるとはならず、事業所側からも職員の力量に合わせた年間の研修計画を立てるなど、勤務体制の調整を図り、参加の機会を確保していくことを期待したい。</p>
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入しているが、研修機会が少なく他事業所職員とはその場で交流する程度であり、それ以外に相互交流を行っていない。</p>		<p>まずは組織内部の他グループホームとの勉強会や交流を実施することから始め、そして研修に参加することで他事業所との交流を深めネットワークを作り、同業者との情報交換やサービスの質の向上を目指すための連携を図っていくことを期待したい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の意向を大切に、入居後も定期的に自宅とグループホームを行き来したり、ご家族と連携をとりながら本人の気持ちを引き出したり、本人が徐々にグループホームの生活に馴染めるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は慣れなれしい対応になっていないか、また上からの目線にならないようケアを提供する際に配慮している。また常に教わるという気持ちを大切に、入居者から昔の風習、風土料理、野菜作りを聞き、教えてもらうなど会話や関わりの中から支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望によりずっと会っていなかった古い友人と会う機会を設定したり、食事の献立づくりなど日々の生活の中から入居者の意向を引き出していこうと取り組まれている。また意向の確認が困難な方には、やれそうなことを見つけ働きかけるなど、本人の立場に立ち、思いを引き出す努力をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活アセスメントシートという記録用紙を記入し、入居者の変化を随時把握すると共に月ごとに入居者の全体像がわかるような介護支援経過がまとめられている。その記録をもとに、本人、ご家族から意向を聞き、より良い生活が送れるよう職員、看護師を交えたカンファレンスを実施し、介護計画が作成されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを定期的に行い、毎月のケースカンファレンスでは設定された期間にとらわれず、入居者の状態に変化が生じた時は随時新しい介護計画を作成している。また介護保険更新により認定時などは定期的に見直しを行っており、きめ細かなサービス計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を実施しておりし、訪問看護師へ常に健康状態を報告し、入居者が安心して生活できるように配慮している。また病院への付き添いや、外出の支援など行なわれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より受診されていた病院を継続できるよう支援している。また、受診時は付き添い、入居者の日々の状況等の変化を医師に相談しながら適切に医療が受けられるようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についてはご家族へ繰り返し説明が行なわれているが、ご家族によってはあまり早い段階だと混乱することもあるので入居者・ご家族の状況を見ながら説明時期・内容等を考慮している。対応については、医師にも確認し全職員で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物に関しては職員以外の目につかない場所へ保管している。また、言葉遣いについて入居者が聞き取りやすいよう慣れ親しんだ方言を利用したりしながら一人ひとりにあった声かけを心がけている。また介助時には、自尊心を傷つけないよう声のトーンや対応に気を付けている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など大体の流れはあるが、入居者の希望を優先し、起床時間や趣味の時間など一人ひとりの生活スタイルを大切に、思い思いに生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の希望によって食材を発注し、献立を決めている。また食事作りや後片付けも入居者が役割を持ち、自分のできる範囲内で実施している。また食事も職員と一緒に食べながらさりげなくサポートしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回の入浴としているが、希望があればいつでも対応する体制を整えている。また入浴できない方であっても、夜間に足浴など支援している。また浴室の手すり等が少ない環境であるがその分、危険がないように職員は見守りを強化し、安心して入浴してもらえる環境を整えている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>センター方式のアセスメントを利用して入居者の生活歴や得意なことなどを把握している。それをもとに野菜作りや掃除、調理など個人ごとの役割や趣味活動が継続して行なえるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は散歩に行ったり、近くのスーパー等へ買い物へ出かけるなど入居者がグループホームの中に閉じこもらないよう積極的に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備し、入社時を始め、全職員への理解を促し、サービスの提供時は身体拘束をしないように配慮している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	会社の方針により、施錠している。またグループホーム前の道路が車の通りが多く危険なため、運営推進会議の中でも話し合いがもたれ町内会長からも気をつけるよう助言があり施錠している。だが、入居者が外出したい時は付き添うなど圧迫感を感じさせないように努めている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施すると共に夜間を想定しての訓練も実施されている。地域住民の協力も必要となるため、運営推進会議でも検討課題として話し合わせ、民生委員や町内会長にも協力を求め働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態変化のある方のみ水分・食事量のチェックを行い、記録している。また献立も入居者の希望に配慮しながらカロリー計算を行い、必要カロリーが摂取されるようにしている。また野菜を多くとるようにしたり、品数を多くし食事が進むように努めている。		カロリー計算だけでなく、全体の栄養バランスをチェックする意味でも適宜、専門家のアドバイスを受けることを期待したい。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防マニュアルを整備し、日々励行されている。季節ごとには発生可能性の高い感染症について職員で確認し合い、予防に努めている。年間を通じて電解水を利用し、食器や布巾など消毒を徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者は自室に閉じこもることなく、共用空間で思い思いの時間を過ごしている。派手な装飾で飾り立てることもなく、落ち着いた色合いで入居者が安楽に過ごせるように配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者によっては認知症により、居室環境がもとで混乱を引き起こす方もおり、持ち物をあまり置いていない方もいるが、基本的には慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、自宅で過ごしていた時と変わらないような居心地の良い居室づくりを心がけている。</p>		

 は、重点項目。